

## 大学と人材分科会（第5回）議事要旨

1. 日時：平成21年5月28日（金）10:00 - 12:00
2. 場所：学術会議5-C(1) 会議室
3. 出席：笠木、青柳、馬越、郷、佐藤、高橋、永原、益田、森田  
欠席：大垣、平松、三田、金子、北原、中西
4. 配付資料
  - (1) 前回（第4回）議事録（案）
  - (2) 「日本の展望」関係の報告書のとりまとめについて
  - (3) 分科会審議とりまとめの基本方針
  - (4) 大学と人材分科会 残された論点
  - (5) 日本の展望委員会 大学と人材分科会における審議の概要
  - (6) 「国立大学法人・大学共同利用機関法人の中期目標の業務実績に関する評価結果について」などに対する対応について
  - (7) 第4期科学技術基本計画に盛り込むべき事項

### 参考資料

- (1) 論点整理 回答集計
- (2) 大学定員新聞記事
- (3) 「日本の計画 Japan Perspectives」
- (4) 日本の科学技術政策の要諦

## 5. 議題

- (1) 第4回議事録案

これを承認した。

- (2) 日本の展望委員会報告

### a. 本分科会の審議の経緯報告（笠木委員長）

委員長より、本分科会のこれまで4回の審議、及び作業の経過について説明があった。

### b. 日本の展望委員会報告

- ・日本の展望関係の報告書のとりまとめは、展望本体、分野別作業分科会、テーマ別分科会からの報告は「提言」、各分野別委員会からのものは「報告」、

第4期科学技術基本計画に関するものは「提言」とすることが決定となった。

- ・ 今後のスケジュール

7月末 各分野別作業分科会、テーマ別検討分科会からの最終提言案提出

10月 総会

11月 「第4期科学技術基本計画に関する提言」の最終案作成、総合科学技術会議、科学技術・学術審議会等への報告

12月 会員、連携会員、学協会などからの意見聴取

明年春の総会で、日本の展望を承認

(3) 分科会の提言とりまとめについて

- a. これまでの審議概要について委員長より説明があった（資料5）。
- b. とりまとめの基本方針（資料3）、残された論点（資料4）について委員長より説明があった。とりまとめの構成として、2020年頃のあるべき大学の姿（ビジョン）、それを実現するために必要な達成課題、課題を達成するために必要な施策の提言、の3構成とすることが提案された。国家ビジョンについては、科学技術基本計画、あるいは学術会議の過去の報告や声明を参考にしたものにした旨説明が加えられた。

(4) 意見交換

以下の観点について、意見交換が成された。

- ・ 留学生の位置づけ

これは、本来国家ビジョンが先にあって決まるものであるが、日本の展望委員会が未だ明確にしていないので、本分科会としては、その点に深く立ち入らず、議論を進めることとした。

- ・ 本とりまとめの基本方針について

2020年に実現する大学の姿を示す。国の財政支援はOECD並がコンセンサスとしやすいと考える。知識基盤、多文化、生涯学習の3つのキーワードの中に高等教育の新しい姿を位置づけることを基本方針とすることとした。

- ・ 少子化に対応する制度設計について

質の保証が今こそ重要であることを強調することとした。

- ・ 残された論点について

機能分化、多様性は面的に考えるのではなく、3次元的に考えること、エリート育成の重要性について適切な指摘を記載することとした。

- ・ 大学評価のありかたについて

中期計画に縛られた評価では意味がないこと、画一的な評価基準が問題であること、エビデンス主義は弊害が大きいこと、運営費交付金を競争的にしていることが問題であり基盤経費は最低保障すべきであること、教育予算については基盤経費を確保し、競争的資金は減らすべきであることなどの意見があった。

- ・ 学部教育について

教養教育と専門教育のバランスが必要で、そのためには新しいビジョンが必要であることが指摘された。

#### (5) 今後の予定

- ・ 7月14日までに、日本の展望委員会に、本分科会の提言案を提出
- ・ 次回分科会 7月28日 15:00、天野郁夫氏に話題提供を依頼予定

上記日程に間に合うように、委員長が6月末までに、本日の資料を基に提言案を作り、分科会委員へ送付し、意見を求める。

なお、提言案がほぼできた段階で、文科省との懇談会を持って、意見交換をすることとした。

(以上)